

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書 /

2025年 11月 22日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	日本維新の会 三田 /	代表者	
		議員名	長谷川良果 /
派遣者氏名	福本愛議員 長谷川良果 /		
視 察 先	丹波篠山市立学校給食センター /		
調 査 事 項 (調査目的)	丹波篠山市は「学校給食甲子園優勝」および「オーガニックビレッジ宣言都市」として、地産地消・食育・有機農業の連動による先進的な学校給食を実践している。本視察では、「栄養バランス × 地域連携 × 給食費の持続性」の三点を中心に、今後の三田市給食運営の参考とする。		
日 時	2025年 11月 11日 (火曜日) /		
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要
	宿泊料		
	日 当		
	鉄道賃 (モレール)		
	航空賃		
	バス賃		
	船 賃		
	タクシー		
	その他		自家用車 /
合 計			
備 考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2025年 11月 22日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	日本維新の会 三田	代表者	
	／	議員名	長谷川良果 〇
派遣者氏名	福本愛議員 長谷川良果 〇		
視察先及び調査事項 (調査目的)	丹波篠山市は「学校給食甲子園優勝」および「オーガニックビレッジ宣言都市」として、地産地消・食育・有機農業の連動による先進的な学校給食を実践している。本視察では、「栄養バランス × 地域連携 × 給食費の持続性」の三点を中心に、今後の三田市給食運営の参考とする。 〇		
日 時	2025年 11月 11日 (火曜日) 〇		
視察先対応者	丹波篠山市教育委員会事務局 学校教育部 部長酒井寛興様 丹波篠山市教育委員会事務局 学校教育部 東部学校教育センター所長 糸川尚子様 〇		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 (1) 学校給食センターの概要 (2) 幼稚園 3400円/月 小学校 4200円/月 中学校 4500円/月 R7年予算より公費負担は、小・中学生給食費半額補助(1年間)、米パン補助、特産品食材補助、賄材料物価高騰分対応など ・ 東部・西部の2センター体制 ・ 調理能力: 1日東部 約3,200食(実際1800食) 西部3000食(実際2000食) ・ 職員体制: 栄養教諭・栄養士・調理員・事務職員など各東部西部40名規模 ・ 地場産コシヒカリ「農都のめぐみ米」を100%使用 ・ 週1回は米粉パン給食を実施(地元産米粉使用) ・ 特産物や郷土食を取り入れた「ふるさと献立」「カムカム献立」などオリジナル献立が豊富 (3) 地産地消の推進 「学校給食に地元農産物を安定供給する仕組み」が制度化されていることが大きな特徴。特に、 ・ 地元農家との契約栽培の推進 ・ 生産者との連絡協議会の開催 ・ 地元食材使用率50%以上を目標 ・ 有機農業者の支援と拡大(有機給食の導入)			

など、市全体の農業政策と学校給食が一体で進められており、地域産業振興と教育施策が一体化した先進事例と言える。

(4) 献立・食育への工夫

- ・ 「ふるさと献立」「カムカム献立」「誕生月献立」「世界の料理献立」「節分献立」「豆まめ献立」など、食育を重視した多彩なテーマ献立を実施
- ・ 食物アレルギー児童への除去食にも対応
- ・ 児童・生徒の郷土理解や国際理解にまでつながる教育的視点が随所に見られる
- ・ 保護者や地域と連携した食育イベントも豊富

(5) 成果

- ・ 全国学校給食甲子園での「優勝」および「優秀賞」受賞
- ・ 給食レシピ本『丹波篠山市学校給食レシピ』の刊行（市民・市外販売含む約 2,000 冊超）
- ・ 地元産食材の使用量増加
- ・ 子どもたちの食習慣改善・残食減少

地域に誇れる「ブランド給食」として市民の理解と協力を得ている点が顕著であった。

所見

◎地産地消の体制整備が極めて強固

丹波篠山市では、生産者団体・農協・行政・給食センターが明確な役割分担のもと「地元食材を学校給食へ供給する仕組み」が長年かけて構築されている。本市が目指す地産地消の推進にとって、行政主導だけではなく「生産者の育成」「流通の確保」「契約栽培」まで含めた包括的支援が必要であると感じた。

◎“食育の質”がとても高い

単に栄養価の高い給食を提供するだけでなく、

- ・ 郷土食
- ・ 歴史文化
- ・ 国際理解
- ・ 季節行事など、多様な観点から子どもの「食と学び」を統合していた。

これは市民からの支持を得ている理由でもある。

丹波篠山市の学校給食は、地域産業振興と教育を融合させた全国でも先進的な事例であり、「地域全体で子どもの食を支える仕組み」が確立していた点が最も印象的であった。

三田市においても、将来の持続可能な学校給食の実現に向け、他市の取組を参考にしながら、食育の充実、地産地消、農業振興、有機給食など総合的な視点で検討していく必要性を強く感じた。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。